Me Voilà — a Cobayashi
中原 中也

人がいかにもてなしてくれようとも、それがたゞ暖い色をした影に見え、自分が自分で疑はれるほど、淋しさの中に這入つた時、人よ憶ひ出さないか？　かの、君が幼な時汽車で通りかゝつた小山の裾の、春雨に打たれてゐたどす黒い草の葉などを、また窓の下で打返してゐた海の波などを…… ※ 実生活は論理的にやるべきだ！　実生活にあつて、意味のほか見ない人があつたら、その人は実生活以外にも世界を知つてゐる人だ。則ち科学でも芸術でもない、大事な一事を！ げにわれら死ぬ時に心の杖となるものがあるなら、ありし日がわれらの何かを慄はすかの何か！　——生を愛したといふことではないか？ 小学の放課の鐘の、あの黄ばんだ時刻を憶ひ出すとして、タダ物だと思ひきれるか？ （社交家達といふものは理智で笑つて感情で判断する。即ち意味に忠実でないからだ。———） ※ さうしてよき心の人よ、あれら手際よい技能家や学者等を恐れたまふな。あれら魂が稀薄なために、夢が浅いので歯切れが好いばかりだ。———彼等が歯切れの好いことは彼等の人格と無関係だ。 ※ 地上を愛さんために、人は先づ神を愛す必要がある！	不管接受別人如何的善待，卻只能當成抹上溫暖色彩的一憧影子來看待；當陷入了就連自身都開始懷疑自我的寂寥之中時，人啊！難道不會想起什麼嗎？　那時，當年幼的你所乘的蒸汽車偶然通過那山丘之下的原野，回憶起那在春雨沖淋之下黝黑的草與葉，又或是窗外那拍打岸邊的大海白浪……。 ※ 我們過的現實生活該是有根據的！若有人於現實生活中只專注在有含義之事上，那他將是還知悉著除了現實生活以外世界的人。也就是說，既不是科學也並非藝術，這才是最重要的啊！ 倘若當我們臨死時擁有著能支柱起心靈的存在，在生前還有什麼事會讓我們為之顫慄！ ——而這不就代表曾珍惜過生命嗎？ 當回憶起那小學響起的下課鐘聲、那染上金黃色的時刻，你能斷言那不過就僅是這樣而已嗎？ （被稱為社交家的那群人，用理性來笑著而用情緒來做判斷。換言之，他們從不去忠於真正的含義。） ※ 因此善心之人啊！不需要去畏恐那些善於術的技師與學者。他們不過是因靈魂有所缺憾，而抱著膚淺的夢想導致喜好近利啊。——他們喜好近利之事與他們的人格是沒有關係的。 ※ 若想要喜愛上這個世間，人們必須先從喜愛上神開始！